

乳児健診におけるアンケート法利用の検討

平 山 宗 宏 (東大医学部母子保健学教室)
藤 原 高 司 (")
小 林 臻 (")
倉 橋 俊 至 (")

1. 研究の目的と要約

乳幼児健診と保健指導に際しアンケート法を併用することは、心身障害の早期発見、保健指導のポイントの把握のために有効であると考えられ、また小児科専門医の診察を必要とするものを選び出せるため専門医の数的制約の中で健診回数を増すことも可能となる。

このため、以上の目的に合致した月令別アンケート項目作製の努力が行われてきたが、昨年度までにほぼその成案を得、さらにその一部項目を昭和51年4月より使用される母子健康手帳改訂版に採用することもできるに至った。そこでこれら月令別アンケートを農山村地域において使用し、評価を試みることにした。その結果、本研究班の作成したアンケート項目は発達おくれ等の異常児のスクリーニングに役立つこと、母親の理解と保健婦の協力の得られるものであることが判明した。

今後このアンケート方式は母子健康手帳の活用とあわせて活用してゆくことが可能であり、前述の目的を達しようと考えられたが、なおその評価をくりかえすとともに、よりよい項目の設定や方式の採用のために努力を続けるべきである。

2. 研究の方法

秋田県鷹巣保健所管内の5町村において、昭和48年4月から49年3月までの間に出生した小児607名を対象とした。この地域では過去10年間にわたり1人の小児科医が健診に当っており、また秋田県方式の健診票を利用して出生前の母体の状況から記録されている上、本研究班によるアンケートを併用することができたのである。

健診は原則として生後3月、6月、9月、12

月、3歳に行われ、その都度小児科医による診察と保健婦による問診、指導が実施されている。

調査項目としては、家族構成、職業、妊娠中の状況、周産期の状況、出生後の栄養法、発達状況、主訴健診結果、等とした。

3. 研究成績

乳児の発育に影響を及ぼす項目としては次のとき諸点が注目された。

- (1) 母乳栄養児は人工、混合栄養児と比べて体重増加の面では下まわりますが、発達面においてはすぐれていた。
- (2) 離乳開始がおくれたものは、そうでないものより成長がおくれる傾向がみられた。
- (3) 下痢・異常便の訴えは乳児の成長には大きな影響はみられなかった。
- (4) 低体重出生の成長、発達に及ぼす影響は本調査の中では12カ月でほぼ消失した。
- (5) 妊娠中、あるいは分娩時の異常は乳児期の成長、発達に悪影響を及ぼすが、とくに妊娠中毒症は成長・発達ともに12カ月までおくれをもたらした。
- (6) 先天性股関節脱臼は乳児の成長を著しく阻害し、早期発見、早期治療の効果がみとめられた。また3、6、9、12の各月令時に実施した各アンケートは表1のごとくであり、はい、いいえ、で答えるようにできているが、その通過しなかったものの率(発達項目についてはいいえ、身体項目については、はい)は表2の1~4に示すごとくであった。ここで通過率のわるいものは設問が不適当であるか、月令が不適当であるかのいずれかになる。お座りは6か月はやや早すぎ7~8か月で問うべき設問であるが、親が判断しにくい、

表1 乳児健診に利用するための
アンケート質問項目

<3~4カ月児>

1. 子供の脇下から胸を両手で支えてだき上げたとき、首がしっかりしていますか。
2. 動くものを目で追いますか。
3. あお向きにねているとき、自分の指やこぶしをかなり長い間じっとみていることがありますか。
4. あやすと笑うことがありますか。
5. あお向きにねているとき、赤ちゃんのみえない方からお母さんが声をかけると、声のする方に顔を向けますか。
6. 下痢や便秘で困っていますか。
7. お風呂に入れたとき、ミルクをあげるとき、または泣いたとき、くちびる口唇が紫色になることがありますか。
8. からだがやわらかくしっかりしない感じがしますか。
9. うでや足がつっぱってかたい感じがしますか。
10. 目つきや目の動きがおかしいと思いますか。
11. ひきつけやけいれんを起こしたことがありますか。

<6~7カ月児>

1. 支えなしでしばらくの間、すわっていますか。
2. おもちゃをさし出すと直ぐに手を出してつかみめますか。
3. なじみのある人が手をさしのべると、喜んで自分から体をのりだしてきますか。
4. 家族と一諸にいるとき「アア、オオ」とかいて会話をしているようがありますか。
5. 離乳食をよく食べていますか。
6. お風呂に入れたとき、ミルクをあげるとき、または泣いたとき、くちびる口唇が紫色になることがありますか。
7. からだがやわらかくしっかりしない感じがしますか。
8. 目つきや目の動きがおかしいと思いますか。
9. うでや足がつっぱってかたい感じがしますか。
10. よく熱を出しますか。
11. ひきつけやけいれんを起こしたことがありますか。

<9~10カ月児>

1. つかまって立っていられますか。
2. 2つの指で小さなものをつまむことが出来ますか。
3. ひとに相手をしてもらいたくて笑顔をみせ、話しかけるように声を出しますか。
4. みしらぬ人に抱かれたとき、泣き出し、なじみのある人が抱きとったとき泣きやむようなことがありますか。
5. 離乳食を1日2回か3回食べていますか。
5. あまり泣いたり動いたりせずたいへんおとなしいですか。
7. うでや足がつっぱってかたい感じがしますか。
8. からだがやわらかくしっかりしない感じがしますか。
9. 赤ちゃんのみえない方で物音がすると、

- 物音のした方に顔をむけますか。
- 10 目つきや目の動きがおかしいと思いますか。
 11. ひきつけやけいれんを起こしたことがありますか。

<12カ月児用>

1. 支えなしで立っていられますか。
2. つたえ歩がができますか。
3. 小さなものをコップ、ビンなどに入れたり出したりして遊ぶことが出来ますか。
4. ママ、パパ、ブーブー、ニャーニャーなど、少なくとも1ないし2語いえますか。
5. テレビのコマーシャルや音楽に合わせて体を動かしますか。
6. 家族の人とよその人とを区別できますか。
7. ごはんを食べはじめていますか。
8. あまり泣いたり動いたりせずつたいへんおとなしいですか。
9. 手足のうごきがぎこちなかったり、つっぱったりかたい感じがしたりしますか。
- 10 目つきや目の動きがおかしいと思いますか。
- 11 ひきつけやけいれんを起こしたことがありますか。

診察の結果発見された異常は、例数の関係で少数に止まったが、軽症例を含めれば1年間の発見数は次のごとくであった(重複例あり)。

整形外科的異常(先天股脱, 斜頸, 外反足等)..... 41例 6.8%

先天異常(ヘルニア, 耳介異常, 心疾患先天喘鳴等)....61例 10.0%

皮膚異常(湿疹, 汗疹, 血管腫, ストロフルス等)..... 282例 46.5%

感染症(上下気道感染症, 麻疹, 水痘等)..... 224例 36.9%

胃腸系異常(下痢, 吐乳, 黄疸, 腸重積等)..... 97例 16.0%

耳鼻科系異常(中耳炎, 結膜炎, 等)

..... 44例 7.2%

これらの通常みられる疾患, 異常の発見され, あるいは発症する時期をみると表3のごとくであった。この成績は一般に乳児健診を行う場合のチェックポイントを定める参考となる。

アンケートの各項目と身体的な異常, 妊娠中の異常, 分娩時の異常, 新生児期の異常のそれぞれとの相関関係をみるためクロス集計を行ってみた(表省略)。

ここで注目すべきことは, 妊娠中毒症および分娩時異常と乳児期初期の発達に間に相関があったこと, すなわち, とくに妊娠中毒症の悪影響が乳児の発達に及んでいることであった。妊婦の健康管理の重要性が示唆される。

4. アンケート法利用時の母親に対する指導について

上述のアンケート法は, 51年4月より改訂される母子健康手帳にも採用されることとなったが, ハイ, イイエで答える方式をとるため, イイエと答えなければならぬ時に母親の不安をさそうであろうし, また何のためにこのような質問をするのか疑問をもつ母親も多いであろう。このためわれわれはこれまでアンケート法を試用してきた経験と成績から母親向けの解説の必要を痛感し, その作製を行った。この内容はしるべき方法により(例えば母子健康手帳交付時に手引パンフレットとして添付する)周知をはかりたい。

表2 乳児健診用アンケートの不合格のもの割合

(1)

3ヶ月項目 (有効調査数) 480		回答数	%
全項目異常なし		327	68.1
発達項目	1. 首すわり	36	7.5
	2. 追視	5	1.0
	3. 手遊び	65	13.5
	4. 笑い	22	4.6
	5. 音	25	5.2
身体項目	6. 下痢・便秘	38	7.9
	7. チアノーゼ	9	1.9
	8. 緊張低下	10	2.1
	9. 筋過緊張	11	2.3
	10. 眼球運動	5	1.0
	11. けいれん	2	0.4

(2)

6ヶ月項目 (有効調査数) 367		回答数	%
全項目異常なし		234	63.8
発達項目	1. お座り	64	17.4
	2. つかむ	10	2.7
	3. 親しみ	35	9.5
	4. 喃語	6	1.6
5. 離乳食		57	15.5
身体項目	6. チアノーゼ	5	1.4
	7. 緊張低下	2	0.5
	8. 眼球運動	1	0.3
	9. 筋過緊張	4	1.1
	10. 発熱	7	1.9
	11. けいれん	3	0.8

(3)

9ヶ月項目 (有効調査数) 286		回答数	%
全項目異常なし		215	75.2
発達項目	1. つかまり立ち	19	6.6
	2. つまむ	7	2.4
	3. 話しかけ	3	1.0
	4. 人みしり	33	11.5
5. 離乳食		14	4.9
身体項目	6. 不活発	2	0.7
	7. 筋過緊張	0	0
	8. 緊張低下	5	1.7
	9. 音	6	2.1
	10. 眼球運動	3	1.0
	11. けいれん	2	0.7

(4)

12ヶ月項目 (有効調査数) 211		回答数	%
全項目異常なし		186	88.2
発達項目	1. 独り立ち	11	5.2
	2. つたい歩き	2	0.9
	3. ビン入れ	6	2.8
	4. 単語	5	2.4
	5. リズム	6	2.8
	6. 家族認知	0	0
7. ごはん		0	0
身体項目	8. 筋過緊張	2	0.9
	9. 眼球運動	1	0.5
	10. 不活発	2	0.9
	11. けいれん	2	0.9

表3 乳児健診における疾病・異常の内容と発見の時期

*----重複有

疾病・異常	1年間	発見の時期				備考
		3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	
外科的異常	41 (6.8多)	23 (4.5)	9 (1.8)	7 (1.7)	2 (0.6)	
内訳：開排制限	18	9	6	2	1	2例1ヶ月で発見
先天股脱	13	7	—	5	1	3例 "
斜頸	9	7	2	—	—	1例 "
外反足	1	—	1	—	—	
先天異常など	61 (10.0)	32 (6.2)	13 (3.0)	8 (2.0)	7 (1.7)	
内訳：ヘルニア	19	13	2	3	3	3例1ヶ月で発見*
先天喘鳴	16	7	7	1	1	1例 "
性器異常	11	7	1	2	1	1例 "
舌小帯異常	5	1	3	1	—	
耳介異常	4	3	1	—	—	
先天白内障	1	—	—	1	—	
先天性心疾患	3	3	—	—	—	
先天代謝異常の疑い	1	1	—	—	—	
皮膚異常	282 (46.5)	137 (26.9)	91 (21.0)	61 (4.9)	48 (13.7)	*
内訳：しっしん・あせも	209	106	65	50	34	10例1ヶ月で発見
おむつかぶれ	25	10	8	2	5	1例 " *
血管腫・母斑	24	14	10	5	4	3例 " *
ストロフルス	23	6	8	4	5	
カンジダ	1	1	—	—	—	
感染症	224 (36.9)	56 (11.0)	71 (16.3)	72 (17.8)	55 (17.7)	
内訳：かぜ	164	45	61	46	41	*
麻疹・水痘	29	1	4	18	8	*
風疹	2	1	—	—	1	
肺炎管支炎	10	5	—	2	3	2例1ヶ月発見
発熱	19	5	6	6	2	1例 "
胃腸系異常	97 (16.0)	26 (5.1)	30 (6.9)	25 (6.1)	22 (6.3)	*
内訳：下痢	64	11	23	21	16	*
便秘	14	3	6	4	1	*
溢乳・吐乳	8	6	0	—	3	
黄疸	4	4	—	—	—	1例1ヶ月発見
異常便	3	2	—	1	—	
腸閉塞・重積	3	—	1	—	1	
腸炎	1	1	—	—	—	
耳鼻科系異常	44 (7.2)	23 (4.5)	11 (2.8)	5 (1.2)	5 (1.2)	
内訳：中耳炎	18	10	5	2	1	1例1ヶ月発見
結膜炎	10	5	2	2	1	1例 "
目やに	9	5	2	1	1	
耳だれ	4	3	1	—	—	
口内炎	1	0	—	—	1	

付表： 母子健康手帳に採用されるアンケート項目についての解説
(母親向)

<満1か月頃>

- フェニールケトン尿症の検査はすみましたか
フェニールケトン尿症は、まれな病気だが、この病気であることを知らずに、治療を受けないでいると知能障害をおこし、精神薄弱になってしまう。生まれて1か月以内に発見し、特殊なミルクで育てると、知能障害がおこるのを防げる。検査は、現在、尿を試験紙で調べる方法だが、近い将来、少量の血液を使う、もっと感度のよい方法に変更される見こみである。
- お乳をよく飲みますか
乳をよく飲まないときは、からだに異常のあることもある。体重が平均して1日に約30g以上、1か月で1kg以上増えていけば、あまり心配はない。生まれたときの体重と現在の体重とをくらべてみるのもたいせつである。
- 裸にすると手足をバタバタしますか
健康な子どもは、裸にすると手足を活発に動かす。このような運動も、発達の上でだいじな役割をもっている。
- 目の前で手を動かすと、それを目で追いますか
生まれてまもなくから物を見つめることができる。満1か月ころともなると、目の前で動くものを、ほんの少しだが、目で追えるようになる。きげんよく、目をあけているときに、乳児の顔をのぞきこんで、顔をゆっくり動かしてみても子どもの黒目がそれにつれて動くか、ためしてみよう。
- 泣いているときに声をかけると泣きやみますか
声をかけたときに泣きやまなくても、泣き方が変わればよい。音が聞こえ、人からの動きかけに反応するかを、知るための質問である。
- おへそはかわいていますか
おへそがいつもジクジクしているときは、臍ポリープなどの病気があるかもしれないので、医師に診てもらおうこと。

<3～4か月頃>

- 首がすわっていますか
乳児のわきの下に手を入れて、支えてあげたときに、首をまっすぐに保つことができるか。また、うつぶせにしたとき、首をもちあげることができれば、首がすわっているとしてよい。5か月をすぎても首がすわらないときは、専門医に相談すること。しかし出生時の体重の小さかった乳児は、一般に首のすわりが遅れがちである。
 - あやすと笑いますか
このころには、あやしたときにほほえむだけでなく、声をたてて笑うようになる。これは、ほかのひとと交渉をもちはじめたことを示している。5か月をすぎて、あやしても笑わないときは、一応専門医に診てもらおうこと。
 - 見えない方向から声をかけると、そちらへ顔を向けますか
これができれば、耳が聞こえ、音の方向がわかり、それに首がしっかりとってきたことを意味している。
 - 外気浴や日光浴をしていますか
3か月になれば、日光や外気に当てたいものなので、まだならば保健婦等の指導をうけること。
- <6～7か月頃>
- ねがえりをしますか
6～7か月になれば、ねがえりができるようになる。しかし、ねがえりは、必ずするものでもないのでお坐りができれば、またつかまり立ちができるようになればよい。
 - からだのそばにあるおもちゃに手をのぼしてつかみますか
7か月ごろになると、まわりのおもちゃなどを見ているだけでなく、手をのぼしてつかめるようになる。これは、目がはっきり見えていて、手先

が器用になってきたこと、おもちゃなどに興味をもちはじめたことの証拠である。

◦家族といっしょにいるとき、話しかけるような声を出しますか。

まわりの人に関心をもち、働きかけようとしていることを示す動作である。しかし、まだ意味のあることばを言うことは無理。

◦(7か月児について)おすわりをしますか。

7か月をすぎると、おすわりができるようになる。支えてもらわずにすわり、足先あたりのおもちゃなどを、からだをかがめて捨い、また、おきあがって背筋をのばせるならば、おすわりは完成である。10か月をすぎてもおすわりができなければ専門医に相談したほうがよい。

<9~10か月頃>

◦はいはいをしますか

最近はいはいをしないで、つかまり立ちをする子もいる。つかまり立ちができれば、はいはいをしなくてもかまわない。

◦支えられて、立っていますか。

10か月くらいでつかまり立ちができるようになれば、正常の発達である。満1歳をすぎても、つかまり立ちができなければ、発達の遅れの心配がある。

◦指で小さいものをつかみますか

手先が器用になって、指先のこまかい運動ができるようになってきたことを示す動作である。小さいものを口に入れて誤って飲む危険ができたことでもあるので、事故に対する注意が必要である。

◦人見知りをしますか。

なじみのある人となない人と見分けができるようになった証拠である。人の出入りの多い家庭で育った子は、あまり人見知りをしないこともあるが、相手をしてやると喜ぶようなら心配はいらない。

◦離乳は順調ですか

1日2~3回離乳食を食べているのがふつうである。まだ食べさせていなかったり、1日1回の場合には、保健指導や栄養指導を受けること。

◦笛やラッパを吹いて遊びますか

音が聞こえ、音に興味をもち、呼吸とは別に息を吹くという動作ができ、吹くと音がでるという関係をみつけた証である。息が吹けることは、ことばをしゃべる準備でもある。

<満1才の頃>

◦つたい歩きをしますか

このころからつたい歩きははじめ、15か月かおそくても18か月には、ひとり歩きはじまる。満2才になってもひとり歩きをしないときは、専門医に相談すること。

◦テレビやレコードなどの音楽にあわせてからだを動かしますか。

音を聞く能力が正常で、リズム感があり、さらにリズムにあわせて運動することができる証拠である。

◦パパ、ママ、マンマ、ブーブーなどのようなことばをひとつでも話しますか

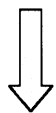
満1才ころになると、お父さんをパパ、たべものをマンマというように、ことばと意味が結びついてくる。意味のある単語をひとつでも言えればよい。ことばには個人差があり、正常でも口の遅い子があるが、満2才になっても、ひとつも単語を口にしないときは、専門家に相談すること。

◦おとなのいうかんたんなことば(おいで、ちょうだいなど)がわかりますか。

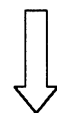
自分では言えなくても、まわりにあるもので、テレビなどの名称がわかり、バイバイなどもするようになる。満2才になっても、理解していないときは、専門家に相談すること。

◦おとなが相手になって遊んであげると喜ぶますか

おとなとの交流がさらに活発になり、このなかで、ことばや習慣、感情といった広い意味での「社会性」を身につけていくのである。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究の目的と要約

乳幼児健診と保健指導に際しアンケート法を併用することは、心身障害の早期発見、保健指導のポイントの把握のために有効であると考えられ、また小児科専門医の診察を必要とするものを選び出せるため専門医の数的制約の中で健診回数を増すことも可能となる。